

平成28年度県民避難力強化推進モデル事業

## 災害避難カード作成の取組事例



平成29年3月

岡山県危機管理課

## 県民避難力強化推進モデル事業とは

平成 26 年の広島土砂災害や、平成 27 年の関東・東北豪雨など、全国各地で大規模な風水害が頻発しています。また、南海トラフ地震や断層型地震の発生懸念もあるなど、本県の災害リスクは年々高まっています。

一方で、本県は比較的災害が少ない地域と言われ、県民の防災意識や自主防災組織活動が低迷しています。大規模災害が発生したとき、行政の力には限界があります。県民一人ひとりが適切な避難行動をとらなければ、尊い生命、身体を守ることができません。

このため、県では、美咲町川北自治会の先進事例を参考に、平成 28 年度において、災害時に住民自らで適時適切な避難行動がとれる「避難力」の強化を図ることを目的として、「県民避難力強化推進モデル事業」をNPO法人まちづくり推進機構岡山との協働で実施しました。

液状化や浸水害、土砂災害といった災害リスクを抱える県内の3地区を県民局単位で選定し、住民参加による災害危険箇所の点検や、ワークショップの実施を通じて、災害時にとるべき避難行動を明確化し、一人ひとりの行動指針となる「災害避難カード」を作成しました。

この事例集は、各地区の皆様が専門家のアドバイスを受けながら行った活動と成果をまとめたものです。ぜひ、地域での自主防災活動を活性化するための参考にさせていただき、県内に広く活動の輪が広がっていくことを期待しています。



H26.8 広島土砂災害

(出典：内閣府（防災担当）作成資料)

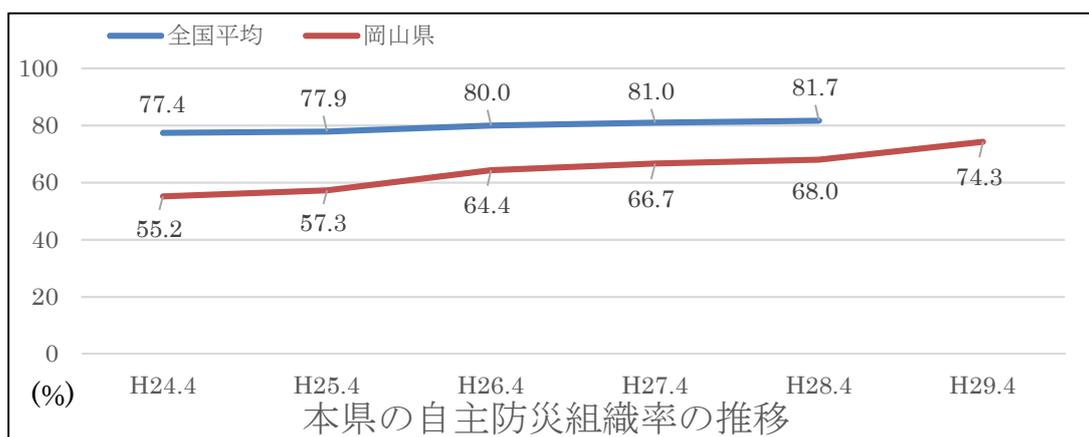


H27.9 関東・東北豪雨

(出典：国土交通省関東地方整備局)



H28.4 熊本地震 西原村



## 事業の流れ

### ◆業務委託

自治会等が主体となって地域の災害リスクを調査・分析し、住民が相互に話し合いながら避難行動のあり方を検討できるよう、自主防災活動の支援に豊富な実績を持つNPOに業務委託し、実施地区に専門支援チームを派遣することにしました。



### ◆市町村説明会

実施地区の募集にあたり、県内全市町村を対象に事業の趣旨や実施計画を説明し、地元自治会への応募の働きかけを要請しました。



### ◆実施地区の選定

応募があった自治会等の中から、災害リスクの異なる3地区を選定し、地元市町と連携して事業を実施することを決定しました。

県民局	市町村	団体（地区）名	災害リスク
備前局管内	岡山市	妹尾さわやか団地町内会 巨大地震等対策部	洪水／地震
備中局管内	新見市	唐松地区自主防災会	洪水／土砂
美作局管内	鏡野町	上円宗寺地区	浸水



### ◆専門支援チームの派遣

事業を開始する前に、NPOの支援員等が各地区の役員等と面談し、事業の目的や進め方についての認識を共有しました。

その後、NPOの支援員や大学研究者等で構成する専門支援チームを各地区に3回派遣し、地域の方々と一緒にまち歩きをして災害危険箇所を確認したり、ワークショップで災害時にとるべき避難行動について話し合うなど、地域での自主防災活動を支援しました。



### ◆活動の定着

各地区では、地域の災害危険箇所等をマップ化して共有するとともに、災害時にとるべき行動や緊急連絡先を記入した一人ひとりの「災害避難カード」を作成し、避難訓練等で安全な避難行動の定着を図ることにしています。また、県では各3地区の取組を県内に広く紹介し、自主防災活動の活性化を促します。

## 妹尾さわやか団地町内会 巨大地震等対策部（岡山市）

○世帯数：143世帯

○取組の背景

- ・液状化、浸水想定区域
- ・定期的に防災訓練を実施しているが、更に有効な訓練を実施し、団体の活性化を図りたい。
- ・専門的な見地から、最も有効な避難方法や、減災対策のアドバイスを受けたい。



### 取組概要

地区役員説明会

- ・事業内容、進め方等を説明。

第1回ワークショップ～まちあるき

- ・4グループに分かれてまちあるきを実施し、災害危険箇所や避難場所・避難経路を確認。
- ・まちあるきの結果をグループごとに地図に記入し、適切な避難行動のあり方を検討。



まちあるき後のグループワーク

第2回ワークショップ

～専門家の現地診断、災害図上訓練

- ・岡山理科大学の西村客員研究員から、団地の災害危険箇所や液状化などの災害リスクについて説明。
- ・まちあるきの結果を踏まえ、災害図上訓練を行い、避難経路等を確認。



専門家による液状化災害の説明

第3回ワークショップ

～マップ、災害避難カード検討

- ・避難経路等を記載したマップづくりの検討及び災害避難カードの内容の検討。

【成果報告会では】

巨大地震等対策部長の平田さんのコメント

- ・地区の危険と思われる箇所について、専門家の意見を聞き、その対策について参加者全員で議論することができた。



## 唐松地区自主防災会（新見市）

○世帯数：354世帯

○取組背景

- ・土砂災害危険箇所、浸水想定区域
- ・避難訓練を実施する等の活動を行っているが、更に活動の活性化を図りたい。
- ・的確な避難行動をとるため、気象情報や避難情報について、専門家からアドバイスを受けたい。



### 取組概要

#### 地区役員説明会

- ・事業内容、進め方等を説明。

#### 第1回ワークショップ～防災講座

- ・地区の避難訓練終了後に防災の基礎講座を実施。

#### 第2回ワークショップ

～専門家の現地診断、まちあるき

- ・岡山大学の鈴木教授と一緒に地区をまわり、危険箇所を確認するとともに、土砂災害リスクについて、説明を受ける。
- ・まちあるきの結果を踏まえ、危険箇所を共有。

#### 第3回ワークショップ

～災害図上訓練、災害避難カード検討

- ・まちあるきの結果を踏まえて、災害図上訓練を行い、避難経路等を確認。



専門家による現地診断



災害図上訓練（DIG）

#### 【成果報告会では】

自主防災会長の串馬さんのコメント

- ・災害に対する住民の意識が低いことから応募したが、専門家の意見を聞いて、災害の恐ろしさを認識でき、防災意識が高まった。

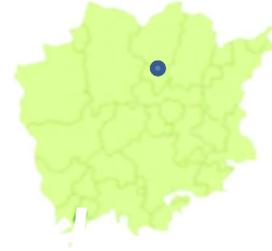


## 上円宗寺地区（鏡野町）

○世帯数：71世帯

○取組背景

- ・浸水想定区域
- ・住民の危機管理意識が低く、自主防災組織も未結成である。モデル事業の取組をきっかけに、防災意識を高め自主防災組織の結成につなげていきたい。



### 取組概要

#### 地区役員説明会

- ・事業内容、進め方等を説明。

#### 第1回ワークショップ

##### ～専門家の現地診断

- ・岡山大学の前野教授と一緒に地区をまわり、危険箇所や災害リスクについて、専門的な知見から意見を聞く。
- ・現地診断を踏まえ、危険箇所の情報を共有。



専門家を交えた浸水想定箇所の分析

#### 第2回ワークショップ～まちあるき

- ・専門家の現地診断の結果を踏まえ、2グループに分かれてまちあるきを実施し、香々美川一帯の浸水害の危険箇所や、避難場所・避難経路等を確認。
- ・まちあるきの結果をグループごとに地図に記入し、避難行動の方法を検討。



災害図上訓練（DIG）

#### 第3回ワークショップ

##### ～災害図上訓練、災害避難カード検討

- ・まちあるきの結果を踏まえて、災害図上訓練を行い、避難経路等を確認。

#### 【成果報告会では】

##### 区長の北山さんのコメント

- ・ 自主防災組織未結成であったが、事業を通じて共助の重要性を学び、平成29年3月に自主防災組織が結成された。



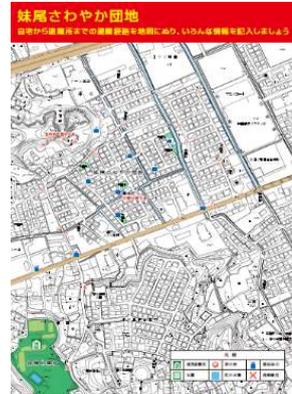
## モデル事業で作成した「災害避難カード」

(妹尾さわやか団地町内会 巨大地震等対策部)

- いつも持ち歩けるように二つ折りの名刺サイズにしました。また、災害時に避難する避難所を各自で選択し、印を入れることにしました。

わたしの避難所		わたしのこと	
<input type="checkbox"/>	妹尾小学校	名前	血液型
<input type="checkbox"/>	妹尾中学校	住所	
<input type="checkbox"/>	西ふれあいセンター	電話	
火事・緊急 119	警察 110	家族の連絡先	
災害伝言ダイヤル 171		災害時やることメモ	
南区対策本部 ☎ 086-902-3500			
妹尾中学校 ☎ 086-282-1144			

災害避難カード(表)・(裏)



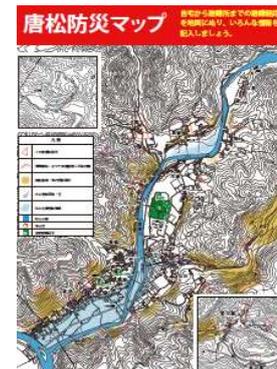
団地マップ

(唐松地区自主防災会)

- いつも持ち歩けるように二つ折りの名刺サイズにしました。

わたしの避難所		わたしのこと	
地震の時	風水害の時	名前	血液型
		住所	
		電話	
火事・緊急 119	警察 110	避難時声をかける人	
災害伝言ダイヤル 171		災害時やることメモ	
新見市役所(代表) ☎ 72-6111			
唐松市民センター ☎ 76-9020			

災害避難カード(表)・(裏)



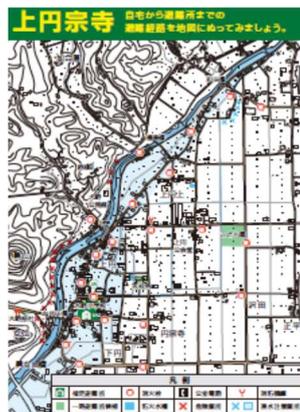
防災マップ

(上円宗寺地区)

- 表面には自分と家族の情報を、裏面にはマップを掲載し、避難場所までの経路を記入できるようにしました。また、サイズは、折りたたんで財布に入る大きさにしました。

わたしの名前		わたしのこと									
姓	名	住所	血液型								
TEL		TEL									
家族の名	TEL	家族の名	TEL								
<table border="1"> <tr> <td>火事・緊急 119</td> <td>警察 110</td> </tr> <tr> <td colspan="2">災害伝言ダイヤル 171</td> </tr> <tr> <td colspan="2">新見市役所(代表) ☎ 72-6111</td> </tr> <tr> <td colspan="2">唐松市民センター ☎ 76-9020</td> </tr> </table>				火事・緊急 119	警察 110	災害伝言ダイヤル 171		新見市役所(代表) ☎ 72-6111		唐松市民センター ☎ 76-9020	
火事・緊急 119	警察 110										
災害伝言ダイヤル 171											
新見市役所(代表) ☎ 72-6111											
唐松市民センター ☎ 76-9020											

災害避難カード(表)



マップ(裏)

## 災害避難カード作成手順のモデル

避難すべき場所や緊急連絡先等を平時から十分に認識しておくため、あなたの自治会や自主防災組織でも「災害避難カード」を作成し、災害時に慌てることなく、あらかじめ定めた避難行動をとれるよう、備えておきましょう。

作成方法に決まりはありません。次のモデルを参考に、自治会等の中で話し合いながら、地域の実情に合ったやり方で作成してください。

### ステップ1：作成計画を立てましょう

- ・ 役員等で3地区の取組事例を参考に、進め方やスケジュールを検討します。
- ・ 必要に応じ、市町村の防災担当者に相談し、助言を受けます。
- ・ 地区内の住民に趣旨や事業計画を説明し、参加を呼びかけます。

### ステップ2：身のまわりの災害リスクを把握し、対策を考えましょう

- ・ 市町村から配付されるハザードマップなどで、浸水や土砂災害の危険箇所、市町村が指定した指定緊急避難場所、指定避難所等を確認します。
- ・ 市町村が、どのような場合に避難情報（避難準備・高齢者避難開始、避難勧告、又は避難指示（緊急））を発令し、どのような手段で伝達するのかを確認します。
- ・ 過去の災害事例や、自治会・町内会で抱えている防災上の課題について話し合い、各自が持つべき防災意識のあり方や、自主防災組織の役割等を明確にします。
- ・ 必要に応じ、市町村や県の防災パンフレットを入手し、参考にします。

### ステップ3：まち歩きをして、災害危険箇所などを確認しましょう

#### （事前準備）

- ・ 地区のマップを用意し、災害時の危険箇所、指定緊急避難場所、指定避難所、避難経路のほか、消防署、病院など、緊急時の利用が考えられる場所を記入します。

#### （まち歩きの実施）

- ・ 地区内を実際に歩き、災害危険箇所がどこにあるか、予定している避難場所、避難経路に問題がないかなどを確認します。（専門家の協力が得られる場合は、助言してもらいます。）

#### （振り返り）

- ・ 新たに発見した災害危険箇所や、気づいた点などをマップに書き加えます。
- ・ 一緒に歩いた住民同士で、感じたことなどを話し合います。

#### ステップ4：災害避難カードをつくってみましょう

- まち歩きで確認したことや、災害時に市町村などから提供される情報をもとに、各自がどのタイミングで、どこに避難するのかを検討します。
- 自由様式で「災害避難カード」を用意し、避難すべき場所や避難経路、緊急連絡先、声をかけて一緒に避難する人等を記入します。

#### ステップ5：災害避難カードを使ってみましょう

- 家族や、参加していない世帯にも「災害避難カード」の作成を呼びかけます。
- 自治会等で企画し、「災害避難カード」を活用して安全に避難する訓練を実施します。
- 災害時には、「災害避難カード」を活用して早めの避難を行います。



<お問い合わせ先>

〒700-8570

岡山県岡山市北区内山下2丁目4番6号

岡山県危機管理課 防災対策班

電話 086-226-7293

e-mail [kikikanri-bousaitaisaku@pref.okayama.lg.jp](mailto:kikikanri-bousaitaisaku@pref.okayama.lg.jp)